序

中洋言語・考古・人類・民俗叢書は筆者が総合地球環境学研究所（略称：地球研）に 2003 年 10 月に赴任し、インダス・プロジェクトを立ち上げた際に、日本語の発表媒体として創刊したものである。

まず中洋という名称は聞き慣れないかもしれない。中洋とは西洋でも、東洋でもない、南アジアから西アジアにかけての地域を指す。国立民族学博物館の梅棹忠夫顧問が好んで使った表現である。われわれの研究対象であるインダス文明、それと交流のあったメソポタミア文明、もう一つのほぼ同時代に栄えたエジプト文明、これら三つの文明を網羅する地域が中洋である。もう一つの言語・考古・人類・民俗叢書としたのは、かつてこうした人文諸学は密接に関連する学問として総合的にとらえられていた時代があったからだ。人文諸学が細分化されてしまい、「葉脈をみて枝をみず」といった状況をなんとか打破したいという思いからそれらの名を並記したのである。

筆者の意気込みとは裏腹に、第 1 巻として、2005 年 3 月に筆者の手による『インダス文明研究の回顧と展望および文献目録』を上梓して以来、第 2 巻がなかなか出版に至らなかった。英文の Occasional Paper は現在 9 巻まで出版し、世界中から執筆者が投稿してくださり順調に巻を重ねている。しかし、日本語の叢書はまったく出版できなかった。一つのプロジェクトで、英文に加えて日本語の叢書をと考えたのには無理があったのかもしれない。それは反省材料である。それに加えて、これまで出版できなかったのにはもう一つの理由がある。それはフィールド調査である。

今回上杉さんが上梓する運びになった本書はかなり前から計画されていたものである。しかし、インドでの発掘があり、発掘の中心的立場にあった上杉さんにはなかなかまとめる時間がなかった。こうした忙しいなか、今回『インダス考古学の展望：インダス文明関連発掘遺跡集成』を刊行する運びになったことは叢書を創刊したものにとって、この上ない喜びである。発掘された遺跡の一覧表をなんとか完成させたいと筆者がはじめたものだが、専門家の上杉さんが地球研に赴任されて以後は彼に任せてしまい、申し訳なく思っていた。発掘をしながらのまとめなので、大変な苦労があったことが容易に推察できる。上杉さんの多大な努力に感謝するとともに、本書がインダス考古学（これは上杉さんの命名）の新たな地平を拓いてくれることを祈願している。

長田　俊樹
プロジェクトリーダー
総合地球環境学研究所教授